

平成29年度中学校・高等学校等の教員にご回答いただいた
クレジット教育に関する
アンケート結果
平成30年2月



一般社団法人

日本クレジット協会

認定割賦販売協会 認定個人情報保護団体

目次

◆1. はじめに

◆2. 調査概要

– 回答者属性

◆3. 調査結果

- (1) 授業でクレジットを取り扱う時間
- (2) クレジットに関して重点的に教えていること
- (3) 協会が作成している教材の評価
- (4) クレジット教育のために必要な教材
- (5) その他クレジット教育支援活動に関するご意見等

1. はじめに

一般社団法人日本クレジット協会は、クレジット取引の健全な発展と国民の消費生活の向上に寄与することを目的に活動しており、その一環として『クレジット教育支援活動』を実施しております。

この活動は、中学校や高等学校等の学校に対し、クレジットに関する補助教材の提供や講師派遣等を行い、将来、社会に巣立つ生徒たちに向けてクレジットの仕組みや正しい利用方法等の理解促進のための教育を支援するものです。

今回実施したアンケートは、教育現場においてのクレジット教育の実態を把握し、当活動を継続的・効果的に行うことを目的に実施したもので、多くの先生方にご回答いただきました。ご回答いただきました先生方に感謝いたしますとともに、調査の結果をご報告申し上げます。

調査結果やご意見は、今後の活動の参考にさせていただきますので、今後も当協会へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成30年2月
一般社団法人日本クレジット協会
クレジット教育センター

2. 調査概要

■内容

中学校・高等学校等の授業において、クレジットについて取り扱っている時間数、内容、必要な教材等について調査。

■方法

教材の申込書にアンケートを併記し、申込みと同時に任意でのアンケートへの回答が行えるような形式とした。

■対象

当協会作成の教材を申込みいただいた高等学校及び中学校の消費者教育担当の教員等。

■アンケート実施時期

平成29年6月1日から平成29年11月31日まで

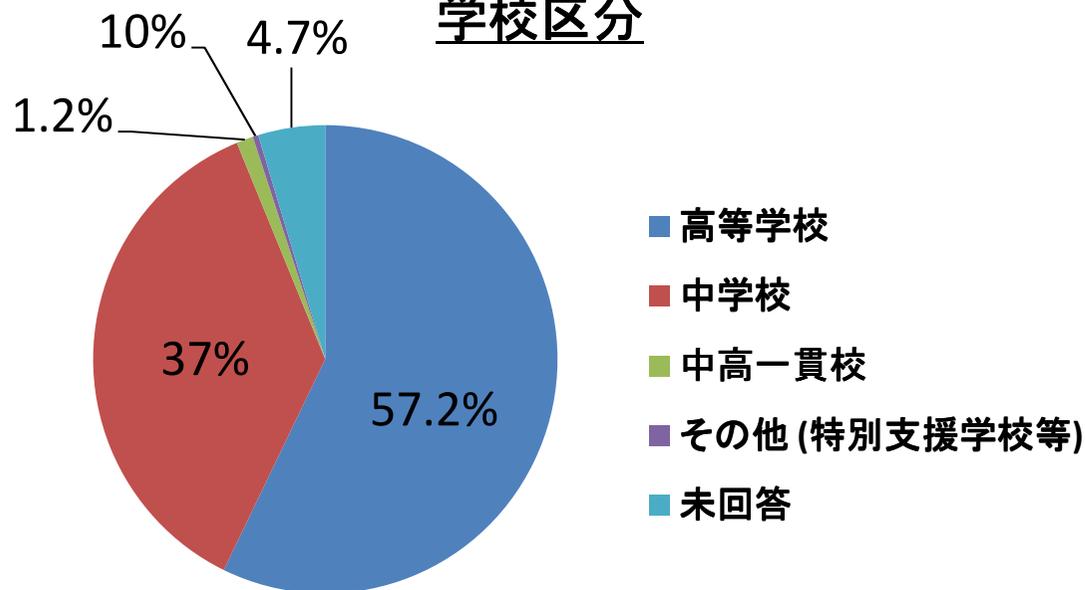
■回答数

257校の教員

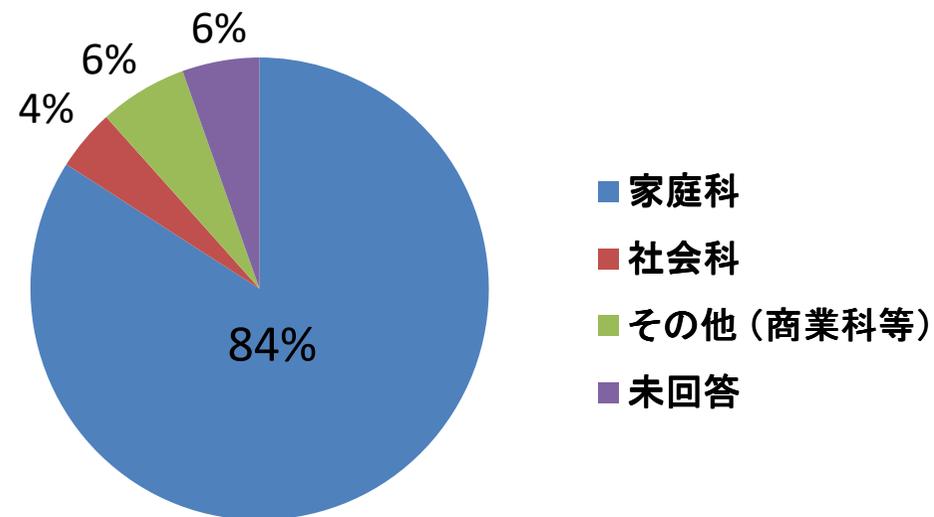
(高等学校147名、中学校94名、中高一貫校や特別支援学校などの教員16名)

回答者属性

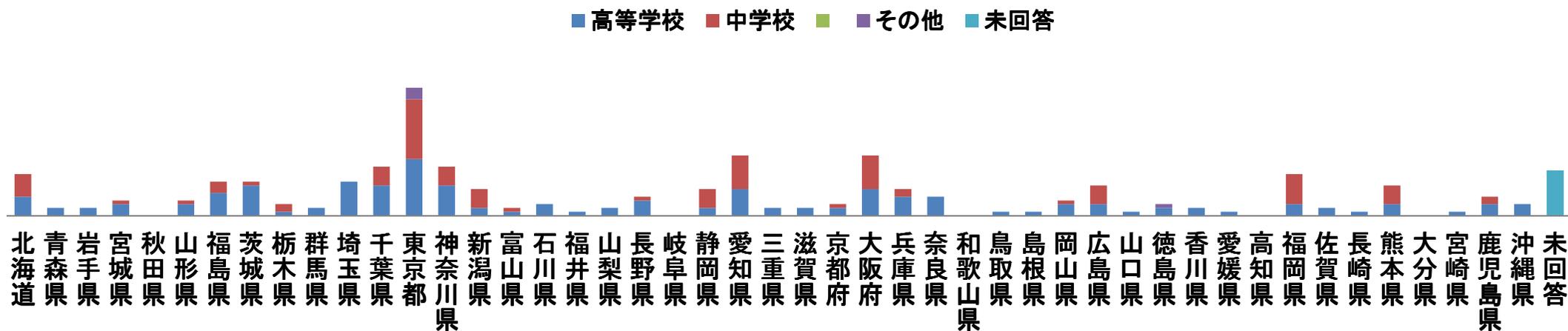
学校区分



担当教科区分



都道府県別



3. 調査結果

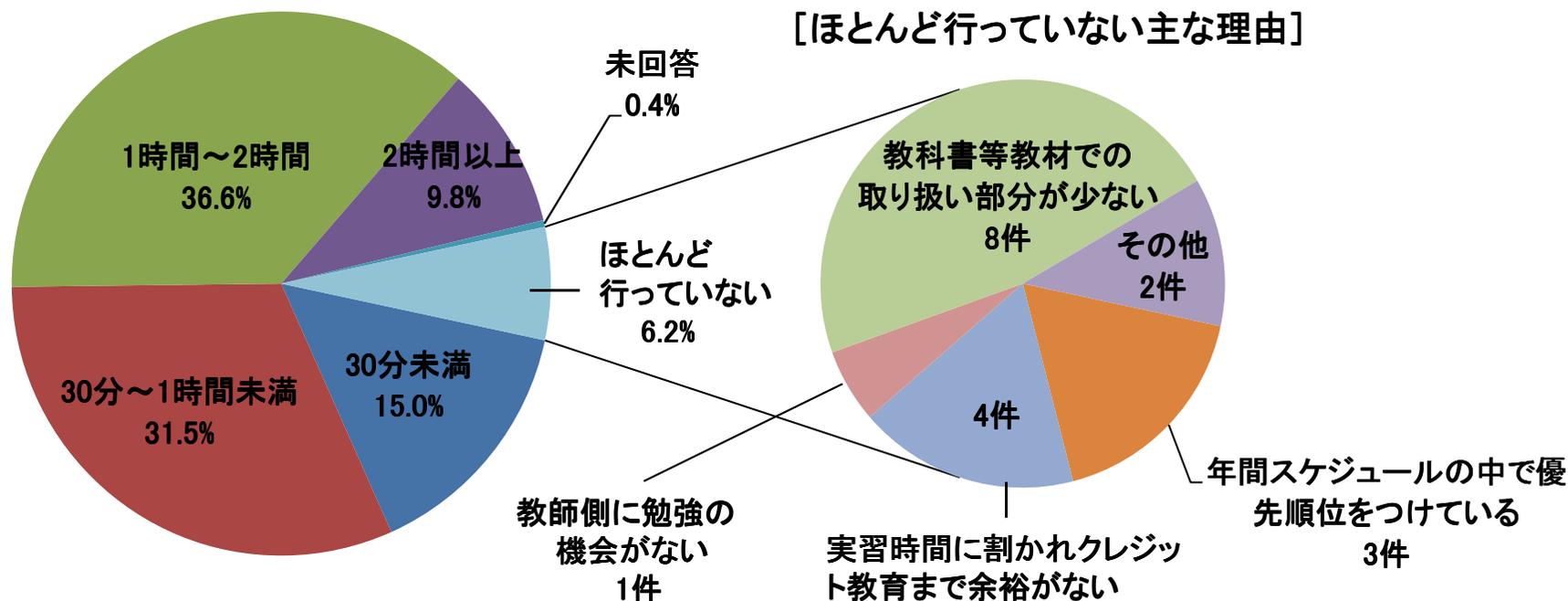
(1) 授業でクレジットを取り扱う時間

授業においてクレジットを取り扱っている時間数は、「1時間以上2時間未満」であるとの回答が全体の36.6%と最も多く、全体での平均は「1時間18分」である。

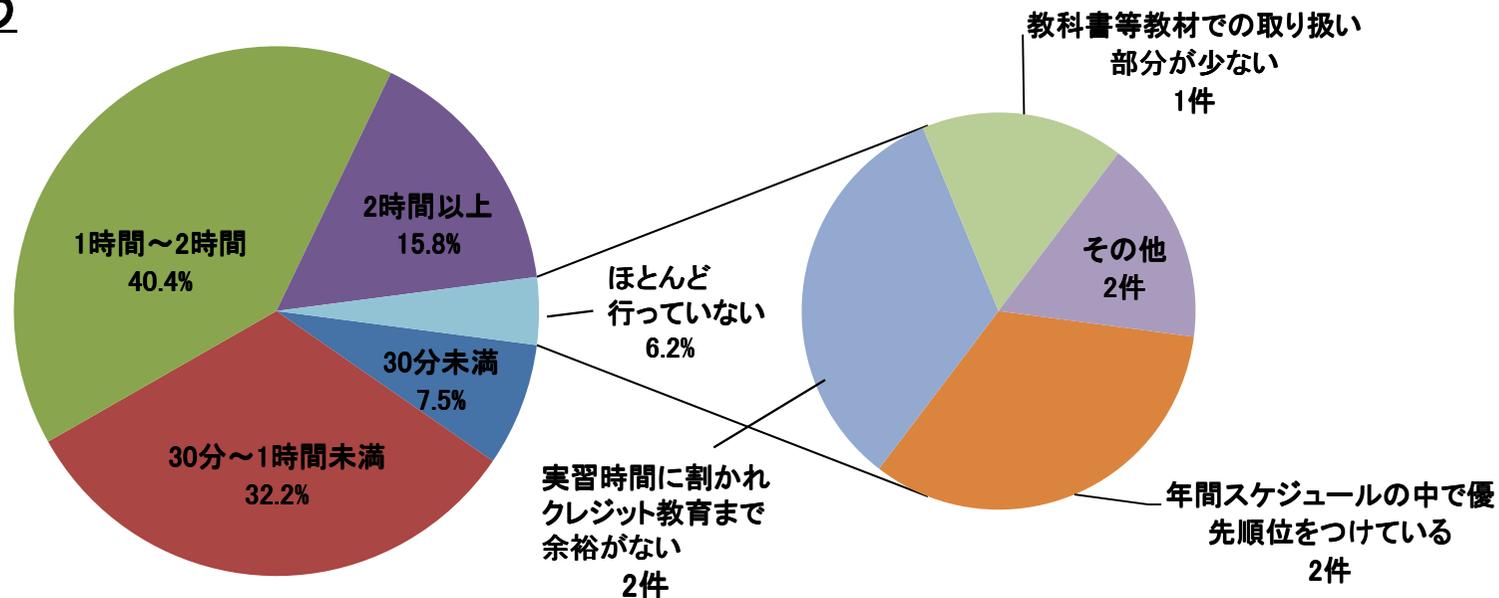
昨年度調査での、全体平均は「1時間21分」で、ほぼ横ばいの状況である。

「ほとんど行っていない」という回答の理由としては、「教科書等教材での取り扱い部分が少ない」という回答が最も多く、ついで「実習時間に割かれクレジット教育まで余裕がない」という回答が多い。

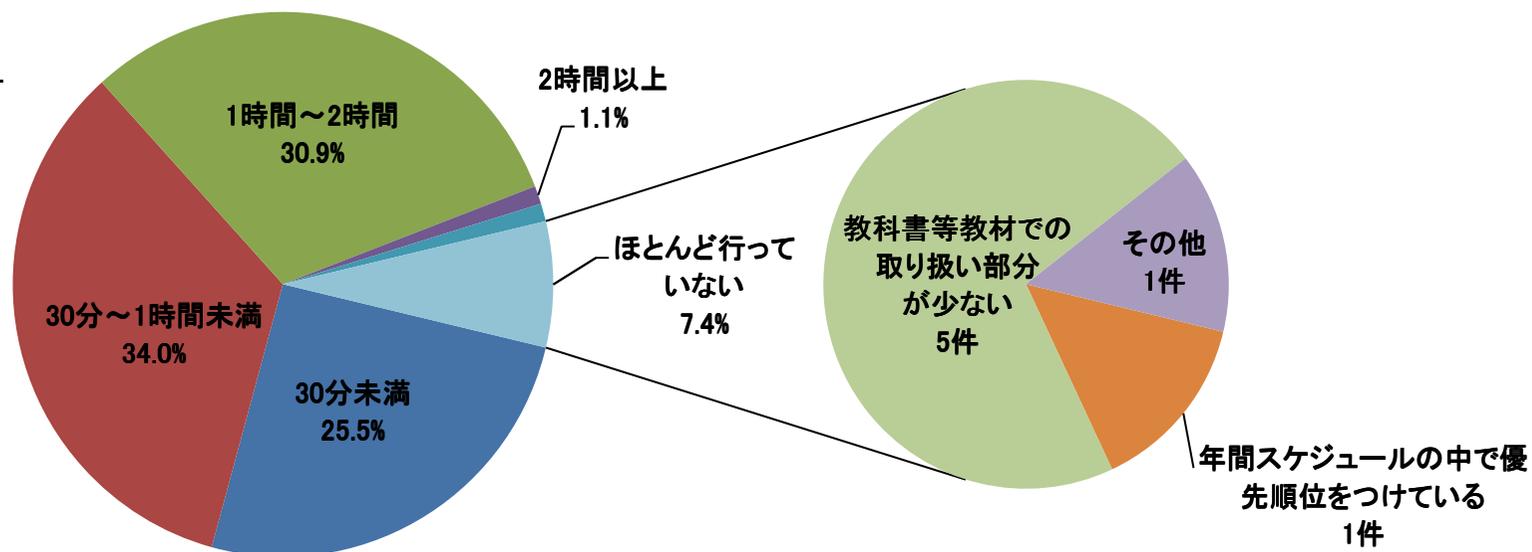
授業でクレジットを取り扱う時間(全体)



授業でクレジットを取り扱う時間(高等学校)



授業でクレジットを取り扱う時間(中学校)



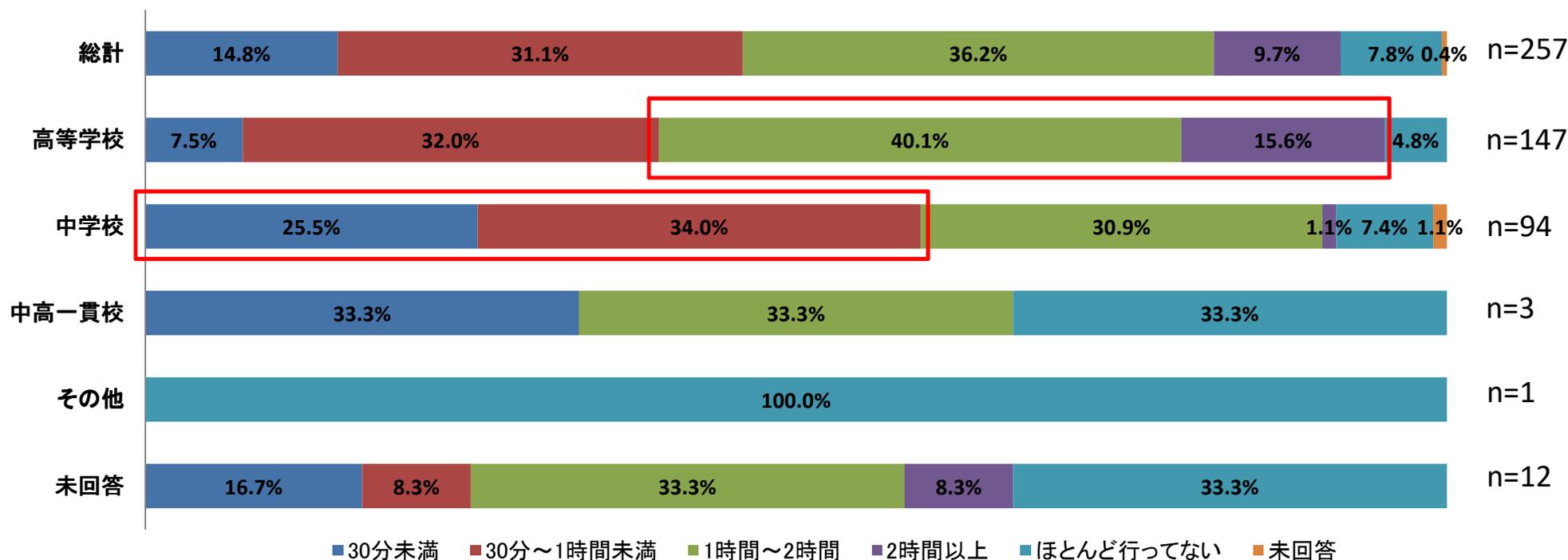
学校区分別に平均時間をみると、高等学校では「1時間28分」、中学校では「1時間6分」で、高等学校の方が中学校よりもクレジット教育の時間数を多く確保している。

昨年度の平均時間数と比較すると、高等学校、中学校ともに若干減少している。

(昨年度:高等学校 1時間34分 / 中学校 1時間15分)

また、高等学校の約6割は1時間以上のクレジット教育の時間を確保しているのに対し、中学校では約半数以上が1時間未満である。

授業におけるクレジット教育の時間(学校区分別)



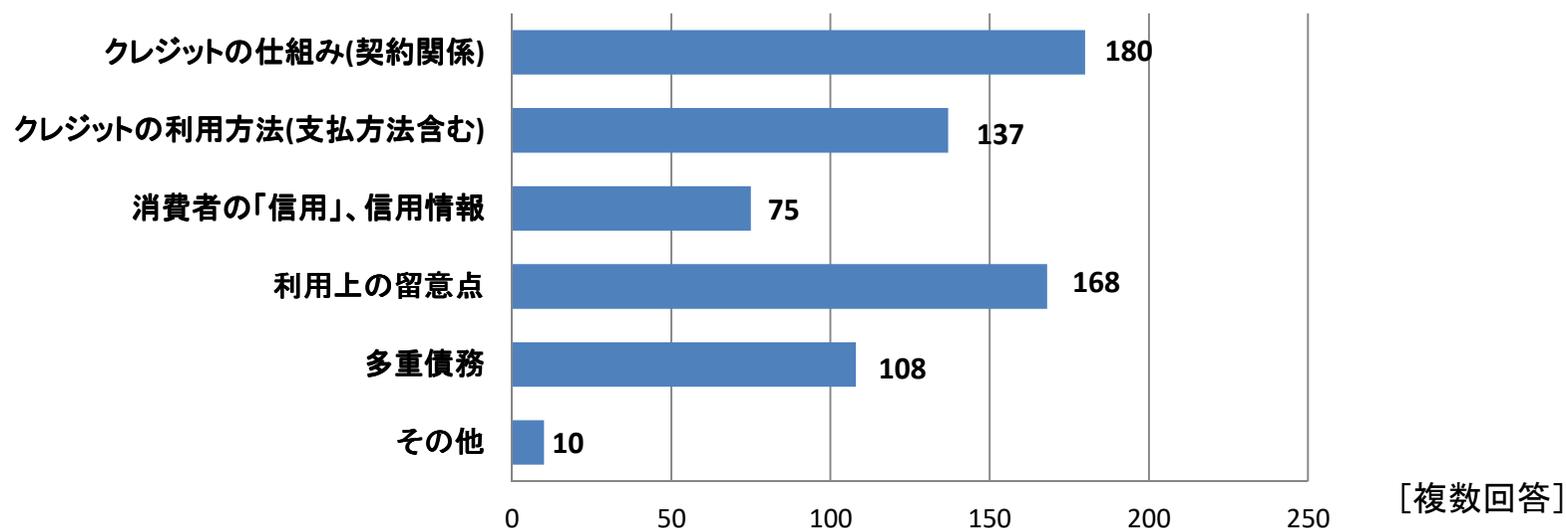
(2) クレジットに関して重点的に教えていること

5つの選択項目のうち、重点的に教えている項目について複数回答でお聞きしたところ、「クレジットの仕組み(契約関係)」の回答が最多(180件)であった。ついで「利用上の留意点」(168件)、「利用方法・支払方法」(137件)と続く。

なお、昨年度は、「利用上の留意点」「クレジットの仕組み(契約関係)」「利用方法・支払方法」の順で、上位2つの順位が逆転する結果となった。また、該当する項目の数について、選択項目のうち、5つ全てを教えているという回答は、11.4%であった。

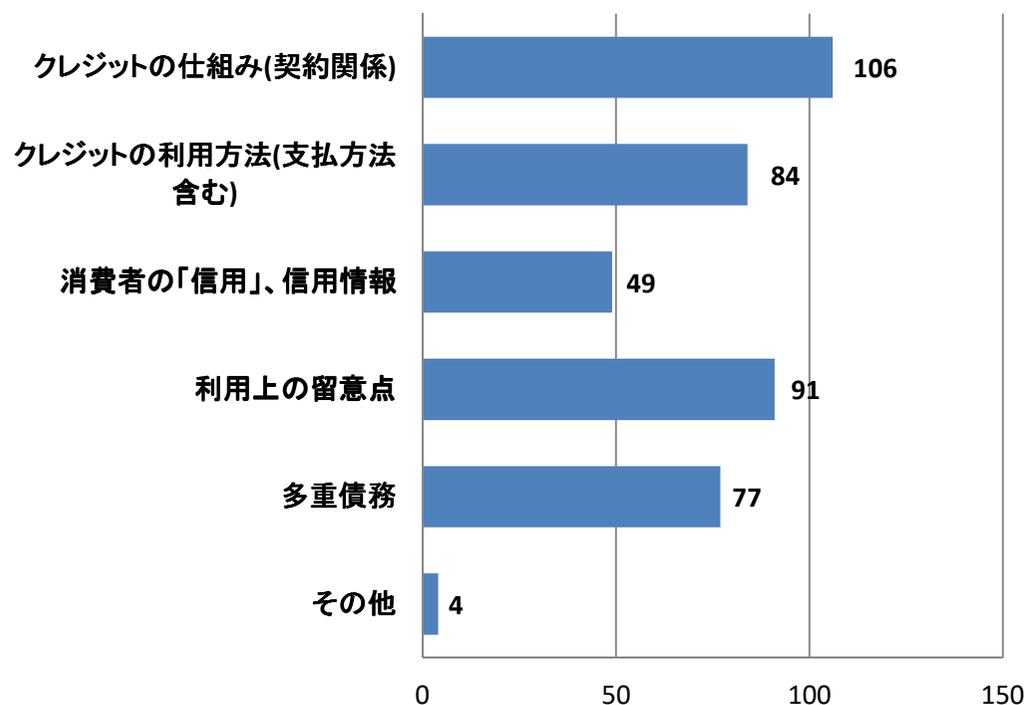
自由回答として、「トラブル事例」や「クレジットカードのメリット・デメリット」等のより具体的な内容を教えているとの回答もあった。

重点的に教えていること(全体)



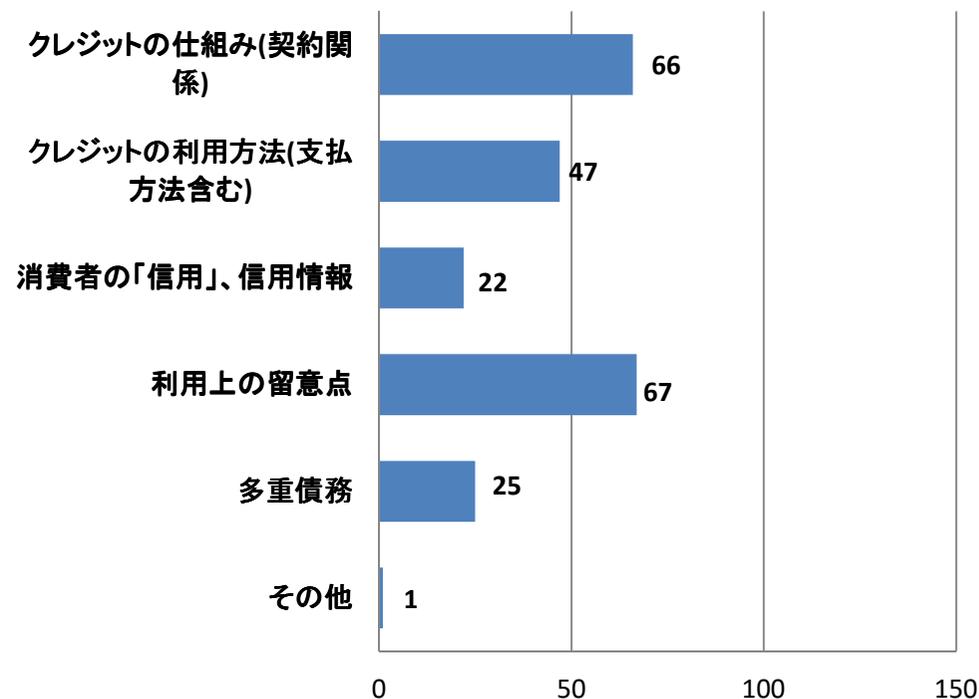
重点的に教えている項目について、高等学校と中学校で比較すると、高等学校では、「クレジットの仕組み(契約関係)」という回答が最も多かったが、中学校では、「クレジットの仕組み(契約関係)」とほぼ同数であるが、「利用上の留意点」が最も多く、高等学校と中学校では重点的に教えていることの傾向に多少の違いに見られた。

重点的に教えていること(高等学校)



[複数回答]

重点的に教えていること(中学校)



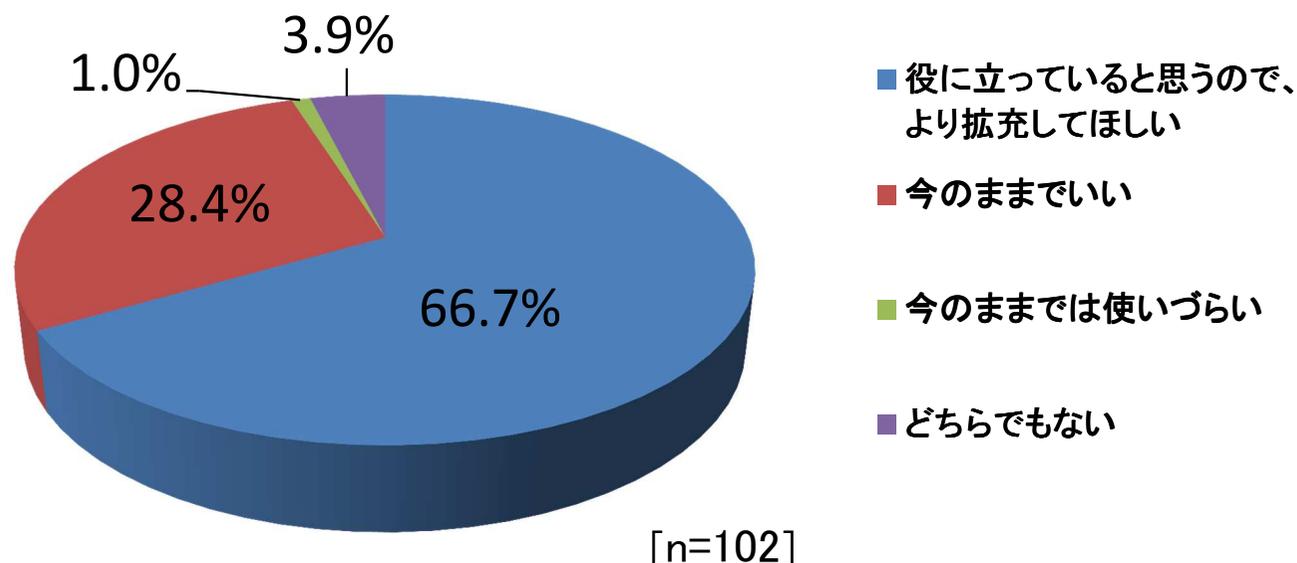
[複数回答]

(3) 協会が作成している教材の評価

本年度改訂した教材の評価について、教材を利用したことのある教員(102人)にお聞きしたところ、「役に立っていると思うので、拡充してほしい」(66.7%)、「今のままでよい」(28.4%)という肯定的な回答が全体の95%であった。一方、「今のままでは使いづらい」という回答は1.0%、「どちらでもない」という回答は3.9%と少数。

なお、教材を使ったことがない先生方からも、多数の教材の申込みをいただいております。初めて協会作成の教材を利用する先生方にも、教材を案内することで改めて興味をもっていただくことができました。

協会作成の教材の使いやすさについて



(4) クレジット教育のために必要な教材

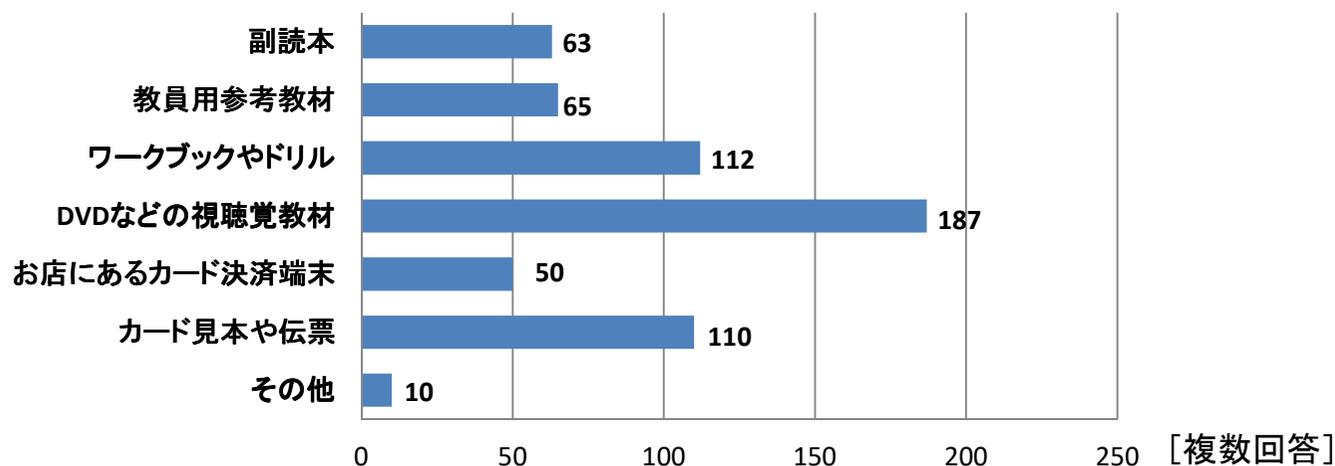
クレジットを授業等で取り上げる時に必要と考えている教材については、「DVDなどの視聴覚教材」(187件)や「ワークブックやドリル」(112件)、「カード見本や伝票」(110件)の3項目の希望が多い。

なお、「DVDなどの視聴覚教材」は一昨年度、昨年度調査でも希望が最も多く、強いニーズがあることがうかがえる。

[その他回答]

- ・中学生向けの簡単な内容の教材
(改訂予定の次期学習指導要領に「三者間契約」が盛り込まれたことから)
- ・50分授業などに合わせた短時間で扱えるような教材
- ・新規の映像教材(映像が古い・内容が難しい)

教材の希望について



(5) その他クレジット教育支援活動に関するご意見等

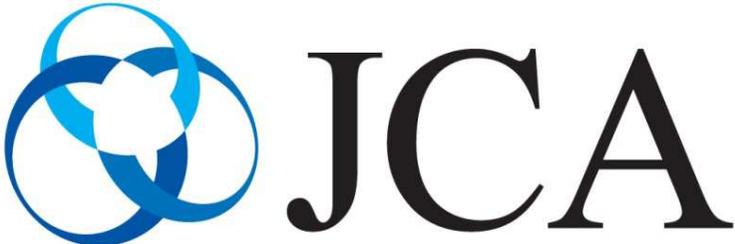
当協会が行っているクレジット教育支援活動について、以下のようなご意見をいただきました。

【夏休みに行っている教員向けの勉強会について】

- ・教材が充実していたので、授業でも活用したい。
- ・自分のためにも生徒に教えるためにもとてもいい研修になった。
- ・カード見本や決済端末を見て触ることで、生徒の関心・理解が深まると思った。

【教材について】

- ・『クレジットワークブック』を授業で利用しており、とても使いやすく参考になる。
- ・マンガ『クレジット青春メモリー』が生徒に好評であり、授業でも活用している。
- ・毎年授業で活用しており、教員用資料としても参考としている。
- ・50分授業で扱いやすい教材がほしい。
- ・中学生でも分かりやすい教材があるとありがたい。
- ・電子マネー等とクレジットカードの違いが分かる教材がほしい。
- ・クレジットカードに関するトラブル事例を教材に盛り込んでほしい。(若者が巻き込まれやすい事例等)



JAPAN CONSUMER CREDIT ASSOCIATION
